

「資生堂・芝浦工業大学キャリアトークイベント『だから理系は面白い』～資生堂女性研究者サイエンスグラント～」開催報告

資生堂・芝浦工業大学キャリアトークイベント『だから理系は面白い』

資生堂女性研究者サイエンスグラント

日時 2015年9月19日（土）13:00～16:00

会場 芝浦工業大学大宮キャンパス 大学5号館2階イ・コ・バ

プログラム



開会あいさつ

芝浦工業大学 学長 村上雅人

第1部：資生堂女性研究者サイエンスグラント講演会 13:05～14:25

司会 芝浦工業大学工学部准教授 有本泰子

「分子の集団を操作する結晶工学の魅力：思い通りにならないから自然科学は面白い」

芝浦工業大学工学部准教授・受賞者 堀 顕子

「切手サイズの血管デバイスから広がる大きな夢」

日本女子大学理学部准教授・受賞者 佐藤 香枝

「だから理系はおもしろいー理系に進んだきっかけから商品開発のおもしろさまでー」

株式会社資生堂リサーチセンター主任研究員 池田 智子

第2部：パネルディスカッション 14:35～15:55

「理工系技術者・研究者として伸びていくために」

モデレーター 芝浦工業大学工学部准教授 堀 顕子

パネリスト

本学卒業生・日本ゼオン株式会社エラストマー研究所研究員 秋泉 碧

芝浦工業大学工学部准教授 有本 泰子

株式会社資生堂リサーチセンター主任研究員 池田 智子

日本女子大学理学部准教授 佐藤 香枝

芝浦工業大学工学部准教授 村上 嘉代子

閉会あいさつ

芝浦工業大学システム理工学部教授・学長補佐 伊藤 和寿

SCIENCE
GRANT
SHISEIDO FEMALE RESEARCHER

芝浦工業大学男女共同参画推進室

協力：株式会社資生堂女性研究者サイエンスグラント

問合せ：desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp (048-720-6440)



▲ 資生堂・芝浦工業大学キャリアトークイベント『だから理系は面白い』
資生堂女性研究者サイエンスグラント

趣旨

大学や研究機関、企業で研究・開発に従事している女性研究者に、研究という仕事の面白さや研究生活、キャリアの転機とそれへの対し方、学生へのメッセージ等をリアルに語ってもらい、学生が、自身の学修や進路選択、将来の見通し等をより具体的・意欲的に考える機会とする。

参加者

	登壇者	教職員	学生	一般	計
人数（名）	9	12	27	8	56
%	16.1	21.4	48.2	14.3	100.0

芝浦工業大学生の参加

	機械工学科	材料工学科	応用化学科	生命工学科	デザイン工学科	大学院	計
人数（名）	1	1	7	13	1	3	27
%	3.7	3.7	25.9	48.1	3.7	14.8	100.0

実施結果概要

はじめに、村上雅人学長が開会挨拶をされた。芝浦工業大学が男女共同参画推進に力を入れて取り組んでいること、女性人材が育ち・活躍できることは、多様な人材を大事に伸ばし、活かして発展していける大学の目印であることを強調された。



第1部：資生堂女性研究者サイエンスグラント講演会

3名の女性研究者が研究内容と研究生活について講演された。

まず、第8回サイエンスグラント受賞者である工学部堀 顕子准教授が、「分子の集団を操作する結晶工学の魅力：思い通りにならないから自然科学は面白い」と題して、受賞研究「動的結晶場を用いた分子認識材料の開発（色と形状を変えながら有害分子を捉える結晶の開発）」と、研究活動の魅力について講演された。受賞研究について、分子間の相互作用を設計することによって、結晶が自ら形を変えてさまざまな小分子を捉えるダイナミックな材料になること、金属イオンとフッ素を導入することで、効率良く分子を取り込む環境保全に役立つ新機能を秘めた新しい分子性結晶が合成できることを紹介された。実験を繰り返す中で予想もつかなかったような発見に出会う化学の研究の面白さ、ひいては自然の理の中で、多くの研究活動・研究成果を重ね合わせて問題を解決し、社会に貢献する理系研究の魅力を語られた。

次いで、同じく第8回サイエンスグラント受賞者である日本女子大学理学部佐藤香枝准教授が「切手サイズの血管デバイスから広がる大きな夢」と題して、受賞研究「マイクロデバイスによる血液細胞産生システムの構築（血液細胞が生まれ出される機構を解明する血管マイクロ装置の構築）」と研究者としての道のりについて講演された。動物実験を行わずに、生体環境を再現した細胞培養から革新的な血管研究装置であるマイクロデバイスを作成する技術は、未解明であった難治性疾患の病態ひいては生命の仕組みを明らかにする可能性をもつ技術であることを紹介された。

最後に、株式会社資生堂リサーチセンター池田智子主任研究員が「だから理系はおもしろいー理系に進んだきっかけから商品開発のおもしろさまでー」と題して、

ご自身の進路選択から商品開発の日々、育児との両立を含む研究者としての道のり、そして、第26回国際化粧品技術者会連盟大会口頭発表応用部門最優秀賞受賞研究「2相分離機構を用いたカップに付かない口紅の開発」（2010）を紹介された。「つや」と「うるおい」があり、かつ「食事をしたとき等にカップに付着しない」という両立し難かった機能を併せ持たせるため、塗ったあとに色材を含む液晶を形成する唇側の相と、表面側の透明な油分の相に分離させる技術を開発された過程、当該技術のその後の口紅開発への貢献について語られた。

第2部 パネル・ディスカッション「理工系技術者・研究者として伸びていくために」

第1部の講演者である佐藤香枝准教授と池田智子主任研究員、工学部有本泰子准教授、工学部村上嘉代子准教授、そして卒業生である日本ゼオン株式会社エラストマー研究所秋泉 碧研究員の5名をパネリストに、堀頭子准教授がモデレーターとなってパネル・ディスカッション「理工系技術者・研究者として伸びていくために」がもたれた。

はじめに、有本泰子准教授、村上嘉代子准教授、秋泉碧研究員がキャリアと現在の研究内容について自己紹介をされた。

次いで、モデレーターの問いかけにパネリストが答えるかたちでディスカッションが行われた。

1つ目の問い「学生時代に身につける力は？」には、自分で考え判断する力、（汎用性のある）勉強の仕方、興味・関心を持つ力、計画、行動から結果まで自己責任で遂行する力（一人旅など）、および打たれ強さなどが挙げられた。

2つ目の問い「進路決定のきっかけは？」には、理系科目が好きで得意だったこと、研究という活動の面白さ、身近な商品開発をしたいという思い、高校1年の化学の授業でのフラーレンC60の美しさとの出会いが化学を通じて社会に貢献したいという思いに転じていったこと、英米文学科で身につけた英語力で就職した職場で「英語だけでは生きていけない」と痛感したこと、こうなりたいというビジョンを持ち続ける中でチャンスを得たこと、などが語られた。

3つ目の問い「うまくいかない時・苦しい時に、モチベーションを保つには？」には、自分は何をしたかったのかという原点に戻る、見方を変える、仲間/チームの力を借りる、うまくいかない/苦しい中にもある認められる経験や励まされる経験をバネにする、「しんどい時間はずっと続かない」と考える、自分が一杯一杯にならない（完璧主義で自滅しないように）、失敗を恐れない、そして「そもそもモチベーションを保たねばと思ったことがない」等の応答が為された。

4つ目の問い「オンとオフの切り替え方やバランスは？」については、各社各機関の仕事と育児との両立を支援する制度や活動、周囲の環境が話の中心となった。

講評と閉会あいさつ

最後に村上雅人学長より「講演者、パネリストが、学生たちに、好きな研究に生き生きと取り組む研究者・技術者の姿を示してくれたことを称賛したい」との講評を頂いた。

伊藤和寿男女共同参画推進室学生WG責任者（学長補佐、システム理工学部教授）から「今日の登壇者のように、常に志の原点を忘れず、そして自分自身の楽しみとともに、社会を変える担い手としての楽しみをもってほしい」という学生へのメッセージを以て会を閉じた。

参加者アンケートの結果の概要

アンケートの回収数は33票であった。

「第1部講演会はあなたの興味を促したり、進路選択に役立ちそうですか？」に対して、回答者の84%が「そう思う」と回答した。「ややそう思う」と合わせ、すべての回答が肯定的であった。記述回答には、一線の研究成果とともに、いきいきと研究・開発に打ち込む研究者の姿や、子育てとの両立のリアルな経験に触れ、イメージが具体的になった、共感したという感想が多く書かれた。

「第2部パネル・ディスカッションはあなたの興味を促したり、進路選択に役立ちそうですか？」に対して、回答者の76%が「そう思う」と回答した。「ややそう思う」と合わせ、肯定的回答が9割以上を占めた。記述回答には、生き様に触れて自身のことを具体的に考える機会となった等の感想が書かれた。今後、こうしたイベントで聞きたい話は、「企業研究者」が最も多く、次いで「卒業生」であった。

自由記述には、総じてよい研修機会であったとの感想とともに、機会をより有効に生かすための提案も記された。

お問い合わせ先

**芝浦工業大学
男女共同参画
推進室**

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307（大宮キャンパス）

E-mail:desk-gequality@ow.shibaura-it.ac.jp